

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

高齢者のがん治療に関する倫理的課題の検討

研究分担者 田代 志門 国立研究開発法人国立がんセンター  
社会と健康研究センター生命倫理・医事法研究部 部長

**研究要旨** 本分担課題では、昨年に引き続き、高齢がん患者に対する意思決定支援ツールの倫理的妥当性に関わる論点である clinical nudge（患者に一定の選択の余地を残しつつも、望ましい方向に誘導すること）の倫理的正当化に関する文献を網羅的に収集し、内容の分析を行った。特に今年度は「患者の最善の利益（best interest）」によって clinical nudge を正当化しようとする Gorin らの議論に着目し、臨床現場で使用されるツール開発における倫理的配慮の要点を検討した。

#### A．研究目的

分担課題（高齢者のがん治療における倫理的課題の検討）では、高齢がん患者に対する意思決定支援に関する論点を抽出し、今後必要な対応を明確化することを目的とする。

#### B．研究方法

生命倫理・医療倫理に関する文献調査を行う。

（倫理面への配慮）

文献調査であり特段の配慮は必要ない。

#### C．研究結果

本年度も昨年度に引き続き、班会議への参加等を通じて広く高齢がん患者の意思決定支援に関わっている医療者と問題意識を共有しつつ、clinical nudge の倫理的正当化に関する論点を検討した。

そこで本研究課題では、clinical nudge の倫理的正当化に関する先行研究を網羅的に収集し、論点整理を行った。特に本年度は、患者の最善の利益（best interest）によって clinical nudge を正当化しようとする Gorin らの議論に着目し、臨床現場で使用されるツール開発における倫理的配慮の要点を検討した。

#### D．考察

Gorin らは従来のように「患者の真の選好（authentic preference）」の実現に訴えて clinical nudge を正当化しようとする議論を退け、患者の最善の利益の実現としてナッジを正当化できると主張している。これにより、clinical nudge の位置づけを、特に「決めきれない患者」のための対話プロセスを補完するものと位置づけることが可能となる。

この議論は、特に本人意思が不確かな場面では、最善の利益が重視されるため、高齢がん患者の意思決定支援においても一定程度応用可能な場合があると推測される。実際、Gorin らの議論を受けて、Blumenthal-barby らは小児領域における nudge の正当化を試みている。

以上の検討を踏まえて、clinical nudge 導入の際の倫理的留意点としては、（1）あくまでも患者にとっての「最善の利益」の観点からツール開発が行われること、（2）対話プロセスの補完としての役割が明確化されること、の2点が重要であるとの暫定的な結論を得た。

#### E．結論

今年度の成果を踏まえて、次年度には臨床現場で使用されるツール開発における倫理的配慮についての取りまとめを行う。

## F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

## G. 研究発表

論文発表

なし。

学会発表

1. 田代志門「どこまで「おせっかい」は許されるか 「保護からアクセスへ」の時代の意思決定支援」第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2018 in 富山（於 ANA クラウンプラザホテル富山）2018年9月17日
2. 田代志門「意思決定支援を支援する臨床倫理サポートの試み」（於 グランドプリンスホテル新高輪）2018年4月29日

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。